

山下議員（自民議連）

令和3年10月4日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）空き教室を活用した特色ある高校づくりについて

生徒が減少することが確実視されている中において、空き教室の増加という逆境を逆手に取り、多様な団体の誘致を進め、地域の子供が地元高校に進学したくなる特色ある学校づくりに取り組むことが今、求められているのではないか。

（答）

デジタル技術の進展・高度化をはじめ、社会環境や国際情勢等が、急速かつダイナミックに変化していくことが想定される中、このような変化にも柔軟に対応し、活躍できる人材を育成していくことが重要であり、昨年度策定いたしました「広島県 教育に関する大綱」にも位置付けているところでございます。

このため、高等学校におきましては、総合的な探究の時間などにおいて、高校生が地域に出て、地域の現状や課題を把握し、多様な他者と連携しながら課題解決の方策等について考える取組を行っているところでございます。

例えば、庄原実業高等学校では、

- ・ 地元の県果実農業協同組合連合会と連携し、学校で生産した梨を香港へ輸出する取組や、
- ・ 民間の事業者をマイスターハイスクールCEOとして迎え、職業人材育成システムを構築することで、生徒を地域産業のクリエイティブな担い手として育成する取組を、

また、油木高等学校では、地域の農家と連携し、ドローンを活用して、農園の測量や作物の発育状況を確認する取組を行うなど、学校と地元企業等が連携した取組を行っているところでございます。

児童生徒の減少が今後も見込まれる中、地域の子供たちが進学したくなる特色ある学校づくりを進めていくためには、地元企業等との連携を進める中で、空き教室を活用していくことも、その方策の一つになり得るものと考えております。

一方で、県立学校の空き教室の活用につきましては、公営の塾のように、目的が公益性などを有するもので、学校教育上、支障をきたすことのないものについて、認めているところでございます。

こうした状況を踏まえ、教育委員会といたしましては、関係部局とも連携しつつ、地域の実情や生徒・保護者のニーズ、他県の事例なども踏まえながら、空き教室を活用した特色ある高等学校づくりの方策について、研究してまいりたいと考えております。